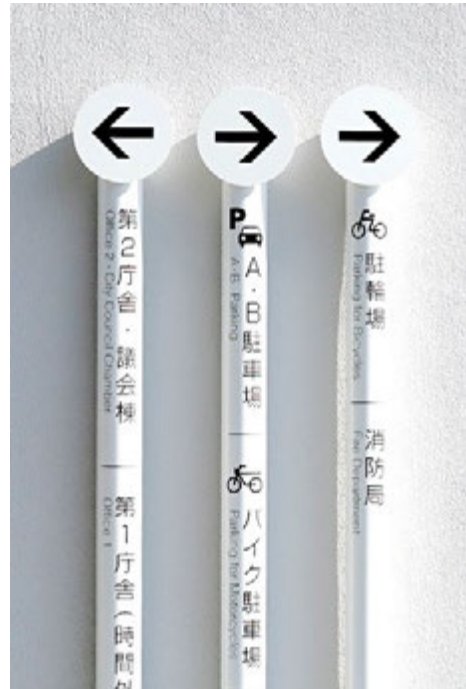


「空間における情報の調和と視認性の考察」

デザイン学科 木住野彰悟 Shogo Kishino



サイン計画を進める過程では、機能としてサインによって情報が伝わるかということが主題となるが多くなっています。それはサインに記載する情報が目立つか目立たないかということで、その目的を達成するためにはどうしても空間に対してサインを大きく設置し、誰もが目にとまるサインを作ることが最終目標となってしまいます。

私は、情報を必要とする人に伝えることはサインとして一番重要であると思いますが、その空間で情報を必要としない人に対しても配慮したものをサインとして設置するべきだと考えています。

情報は伝われば良いのではなく、情報がどのように存在しているか、がサインを設置するうえでとても重要ではないでしょうか？



東京生まれ、廣村デザイン事務所で廣村正彰氏に師事、2007年に6D設立。
企業や商品のブランディングを中心に、ロゴ、パッケージ、サイン計画など多岐に渡り活動。
主な仕事に、JAL「STEAM SCHOOL」AD、麒麟「Home Tap」AD、小田急線「路線図」デザイン、新宿新南口「NEWoMan」サイン計画など。
主な受賞に、カンヌ、D&AD、one show、アジアデザイン賞、サインデザイン賞、ADC賞、JAGDA賞 他国内外多数。2016年D&ADデザイン部門審査員、2017年グッドデザイン賞審査員。



新宿駅 LUMINEO 公共施設として視認性を高めたのサイン



ライフクリニック 蓼科 蓼科の自然に溶け込む切り文字のサイン



新宿駅 NEWoMan 商業施設に調和する鏡を使用したサイン